

第3回まちづくり推進委員会 会議録要旨

【日 時】 令和6年11月8日(金) 午後6時00分～午後8時00分

【場 所】 大正地域振興局 2階大会議室

【出席委員】 谷本委員(会長)、味元委員(副会長)、太田委員、佐々木委員
宮脇(昌)委員、田中委員

【欠席委員】 宮脇(奈)委員、尾崎委員、市川委員

【議 題】

①花を活用したまちづくりについて

<今後の予定>

- ・11/24(日) 西部地区産業祭

②大正地域のまちづくりについて

<前回出た意見>

- ・土佐大正駅上の駐車場の借上げ
- ・駅なかレンタル売店の有効活用
- ・空き家活用・チャレンジショップ
- ・予土線グッズのPR

<提言案>

- ・タクシー、コンビニ

③その他

議題1 『花を活用したまちづくり』について

谷本会長)

花を活用したまちづくりについて、事務局より説明をお願いしたい。

地域振興局長)

西部地区産業祭は今年11/24(日)、大正中学校のグラウンドと体育館で行う。2年前を参考に当日の流れや会場等の準備を進めているが、現在、ポスターの掲示、また抽選券付きのチラシについては、11/10の区長回覧文書にて大正地域、十和地域への全戸配布を区長さんをお願いをしているところである。

谷本会長)

花の準備は土曜日、前日になると思う。設営の時間等は決まっているか。

地域振興局長)

会場準備は前日の11/23(土)の8時半から始める。2時間もあればテント、イスが並び大方のレイアウトは決まる。午前中であれば10時もしくは10時半からできないことはない。あとは皆さんで午前がいいか、午後がいいかを決めていただけたらと思う。

事務局)

天気によって、雨だと先生が車を停めている方に屋台・テント等が移動する。入口の方に重点的に花を飾るか、グラウンドが使えるようであればそちらにテントが設営されるので、ゲートボ

ール場の方を華やかにするか。すでに中学校の方でも花を植えていて正門にもある程度花があるので、ゲートボール場の方にこちらの花を重点的に置くか。

現在高校にお願いしている花がプランターで 130 鉢くらいあるので、会場のレイアウトを見ながら割り振りをしたいと考えている。

谷本会長)

配置場所の候補としては、ゲートボール場の入口と正門。前回の設置からすると半分くらい。

事務局)

前회가 180~200 の間くらい。去年の夏から 200 くらいでやってきているが、街中に配り切れていない。現在北ノ川、打井川の方でも置いてもらっているがそれでも余るので、大正駅と道の駅に残り全ていっている状況。配り切れるくらいで 130 というところである。

味元副会長)

今花はどこに置いてるのか。

事務局)

高校にある。一旦高校から引き上げてこないといけない。それか、そのまま中学校に運ぶのかそれを皆さんでするのか。高校が土曜日休みなので金曜日までにどこかに移動をさせておきたい。運バンで 16 鉢、軽トラで 18 鉢程乗るので、2 台で 3~4 往復すればいける。

味元副会長)

土日に出ていけないので、高校から搬出する作業は手伝いたい。軽トラがあるので金曜日に移動させておく。

事務局)

高校の時間もあると思うので、問い合わせをして 17 時を過ぎてもいいということであれば 16 時半から。17 時までにとということであれば、16 時くらいからこちらで始めておいて合流できる時間から合流していただく形でいいのでは。

谷本会長)

それをお願いしたい。前日の準備については、集合を 10 時に役場ということによろしいか。集まった人数で振り分けをしたい。

太田委員)

イベント終了後の花の撤収はどうするか。

事務局)

撤収作業の時にまた交流センターに置いておいて、それをまた皆さんで配るのかというところ。この事業が、もともと街中をまちづくり委員と学生さんで配るところからスタートしてる。そのあたりもイベントが終わった後をどうするかというところを皆さんに協議いただきたい。

地域振興局長)

産業祭が 14 時に終わって、テント・イス等の片付けが終わりかけた頃から撤収してもらえたら。どちらにしても当日グラウンドから出さないといけない。その方法として、そのまま商店街に配るのか、一旦交流センターか役場の裏側に置いておいて後日配るのか。24 日の産業祭の日に終わりの時間まで大正中の会場にいられる人が何人いるのか確認してみたらどうか。

谷本会長・宮脇委員)

24 日は行ける。(その他の委員は難しい)

谷本会長)

ひとまず当日に交流センターか役場に移動させて、後日夕方に配布するというところでよいか。

佐々木委員)

配りに行くのは、その日に集団で配らないといけないものなのか、それとも来れる日に決まった場所に自分の時間帯で行くというのでもどちらでもいいのか。例えば、130を一気に配るのではなく、来れる人で仕事終わりや休みとかで配るというものありか。

谷本会長)

それはどちらでもいい。持って行った場所と数さえ共有してもらえたら問題ない。

佐々木委員)

特に配布先は特定してないということによいか。

事務局)

過去の配布実績の一覧があるので、その一覧表を基に「ここ誰が行く？」と確認しておいて、後日各々が行けるときに交流センターから持っていくようにしてはどうか。

谷本会長)

それでいいと思う。もし配れる余裕があって配りに行ったということであれば、後で役場に連絡して、その表にチェックしてもらえたら次配るときに確認ができる。月曜日から配っていけば1週間もかからないと思う。

地域振興局長)

一人で行くのも良いが、まちづくり推進協議会として配布していることが相手側にも分かってもらっていた方がよいと思うので、1人よりもなるべく2人で配布をお願いしたい。

議題2『大正地域のまちづくり』について

(1) 土佐大正駅上の駐車場の借上げについて

谷本会長)

前回出た意見について、順次協議していきたいと思う。まず大正駅の駐車場の借上げについて、JRへの確認を事務局にしてもらった。そのことについて事務局より説明をお願いしたい。

事務局)

JRに現在空き地になっている土地を協議会が借りることは可能か問い合わせをした。

現在の駐車場は、平成2年に町が全面積を借上げ、そのあと平成14年に一度見直しを行い、全体の約半分の面積、現在の土地分を借上げお支払いしているという状況である。現在の町との契約に基づき協議会が残り半分を借りようとした場合は、借上げ料は年間約63万円程度が必要になるのではないかとと思われる。ただ、草刈りや倒れたフェンスの修繕、駅舎での観光案内等をしていただけるのであれば、協力という形で減額の可能性もありそうにJRの担当者は言っていた。

谷本会長)

純粹に借りて何かをしようとするれば経費が必要になるので、何もしない状況でただの駐車場として使うだけだとなかなか難しいのではないか。

事務局)

前回の会で、マルシェで歩行者天国にするにしても、まち歩きをするにしても車をどこに置く？といった問題が出てくるということでこの駐車場の話が出てきたが、そのことについてはどうか。

宮脇(昌)委員)

場所による。のきさきマルシェは出店範囲も広いのでJA跡地や診療所などでも全然大丈夫。ピンポイントで駅周辺になった時に少し置き場所に困るくらい。他に利用の需要があれば良いが…。

地域振興局長)

もし使うとしたら1年を通して使う計画を考えたらありかもしれないが、ない場合は…。

太田委員)

観光案内を駅でやるとなった場合、どの程度のものが必要なのか。人を置けということなのかただパンフレットを置いただけで観光案内になるのか。それくらいならできそうだけど。

宮脇(昌)委員)

予土線の観光案内ということですよ？街中の観光案内でも良いのであれば主旨に合致するけど、予土線やもんね。

谷本会長)

駐車場については、今後イベント時にその時々で貸してもらえないか交渉してみて、草刈りなどはこちらでやるので、無料にしてもらえないかと交渉していくということによろしいか。

委員)

一同賛成

(2) 駅なかレンタル売店の有効活用について

谷本会長)

駅ナカレンタル売店について、このチラシは町が作成したものか。

事務局)

以前協力隊の田中さんが任期中に作成したもの。

宮脇(昌)委員)

以前ケーキなどを販売してくれていた時は若い子たちもよく来ていたが、なぜ来なくなったのか？

田中委員)

結局直接声をかけないとなかなか。声をかければ出店してくれるかもしれないが…。

太田委員)

中で調理ができるように水道や火は通ってないのか。

事務局)

通っていない。

太田委員)

中で調理はできず冷蔵庫は小さなケースがあるだけ。こういうところはやっぱり食べ物がいい。ここでたこ焼きを焼いたりはできないものか。

事務局)

高校生の出店が促せたらと小野さん (EkimaeHouse Samaru オーナー) とともに話している。小野さんが屋台業の営業許可を持っているので、高校生をアルバイトで雇って出店することも考えていると聞いている。

宮脇(昌)委員)

みんな駅ナカ売店のことを知らないということと、集客がネック。

田中委員)

それは何とも言えない。なので人に声をかけるのも掛けづらい状況ではある。

谷本会長)

現状、作ったものを持って来てもらって、売り切れたらそこで終わり。すぐ終わってしまう。

太田委員)

近くで調理できる場所があったら、そこで作って持って来てもらうことも可能かもしれないが。

宮脇(昌)委員)

新町の集会所で調理はできないか。

事務局)

製造許可を取る必要があるので、菓子やパン、総菜を製造販売となると加工場のような設備があるところでないとなかなか難しい。趣味レベルで気軽に販売できればいいが、ケーキやパンを販売しようと思うと屋台業だけでは難しい。

太田委員)

この辺にいる人でできたらいいが、いきなり遠くから来てやるには厳しい。1~2日でなかなか結果がついてこない。

事務局)

町外から定期的に来てくれていた出店者さんとは、出店者同士で繋がりができたり、普段見かけない出店者さんが来ることで、街中の人たちが新しい商品に出会える楽しみもできた。だからこそ余計にもったいないと感じるし、繋げていきたいところではある。

宮脇(昌)委員)

昔自由軒だったところでやっていた屋台の大判焼きが美味しかった。

太田委員)

のきさきマルシェのときに、クラファンを利用してパン屋をやりたいという方がいたと思うが、その方はどうしているか。塩パンがとても美味しかった。この辺でちゃんとしたパンが買えないのであると嬉しい。

佐々木委員)

高校生が作る農産物は、今も販売はしているか。

宮脇(昌)委員)

担当の先生が街中で販売している。前はリヤカーを引いて来ていたが、今はワイワイ広場では生徒も販売している。

佐々木委員)

高校生に利用してもらうとか。本来の出店という形式とは違うかもしれないが。

太田委員)

大正は今、農協の直売所がなくなっている。野菜を引き取ったりやり取りするのも大変かもしれないが農作物の直売所があれば違うと思う。

佐々木委員)

産業祭に来られる出店者さんは、こういったところが来てくれるのか。

地域振興局長)

各地域の団体、グループの他、毎回露天商の方にも来てもらっている。今回も呼びかけはさせていただいて、今年は4店舗。全体で言うと17~18店舗の見込みである。

佐々木委員)

そういうイベント等で出店をされているグループ、出店者さんにチラシを配るなどしてPRする。“大正地域で、駅で販売できるんだ”ということをまずは知ってもらいと、少しは考えてもらえる余地も出てくるんじゃないかと思う。

谷本会長)

マルシェが近いので、その際に出店者の方にチラシを配って案内してみても良いのでは。

太田委員)

学生は駅舎の中を利用しているか。また、普段平日で乗降者数、駅自体を利用している人はどれぐらいいるのか。

谷本会長)

乗ってる人はかなり少ない。今、寮生も増えているので放課後に座っているの生徒を見かけたりはする。

太田委員)

土日はどうか。

宮脇(昌)委員)

土日こそいない。

事務局)

鉄道マニアの方や観光客の方は土日の方が多いが、写真を撮って終わりといったように滞在時間は少ない。

太田委員)

ということであれば、大正の街中に向けて販売する PR していくという形を取らないと、恐らく観光客や駅の利用者をターゲットとしていてもやっていけない。せっかく駅の中にあっても、駅の中に来る人もいなくて外から見ても目立たないとなると、あまりいい効果は期待できない。

やるなら「やってます」とドーンと表に大きく出さないと、街の人たちも気づいてもらえない。

宮脇(昌)委員)

以前出店者さん3店舗くらいが集まってお店を出してくれた時があったと思うが、あれはどうやって来てもらったのか。

田中委員)

こちらから「一緒にやりませんか?」「イベント的にやりましょう」と声をかけて集まっていた。やはり声かけがなくなると向こうから出店しますというのはなかなかない。毎日声をかける人もいないので途絶えてしまったというのが現状。

太田委員)

甘いものだと集客しやすいが。大判焼きなども人気があると思う。ここでは焼けないのか。

宮脇(昌)委員)

中は無理かもしれないが屋台ならできるのではないか。ただ駅前も場所的に難しい。

太田委員)

街中で屋台を出店できる場所あるか。田中委員のお店で食品の製造はできないものか。

田中委員)

できない。製造・販売となると閉じられた環境をつくらないといけない。保健所の許可が必要なジャンルになるとなかなか制約がある。一般の方がちょっとやってみたいと言っても、そういった許可の下りた場所を借りて作らないといけなかったり、結局費用等を考えると難しくなる。

太田委員)

どこからか仕入れてきて、販売することは可能か。

事務局)

許可を受けた場所で作られたものは販売することは可能だが、温度管理が必要なものは食品管理の届出が必要だったりする。また、総菜を仕入れて販売しようとするときは飲食店の営業許可が必要。

太田委員)

少しでも話題になれば人は集まると思うが…。私もあちこち食べに行ったりするが、こんなところに人が来るのかなと思うところに行けたりする。何かがあるんだと思う。この辺でもチャンスはあるはず。

宮脇(昌)委員)

若い子は LINE やインスタグラムなどで情報収集をして行ったりしている。

谷本会長)

駅ナカで何店舗かが集まって、この日にやりますというスケジュールが組めるようになったら、駅の前に QR コードを張り出して、読み取ったら出店者の予定表が出るといったこともやっていけるといいかもしれない。

太田委員)

駅ナカの場所は J R の所有になるのか。

事務局)

駅舎は町の所有になっている。

宮脇(昌)委員)

テレビ番組でタレントが駅舎に注目してくれていた。

谷本会長)

ひとまず産業祭とマルシェの際に、駅ナカ売店の案内チラシを配るということでよろしいか。

委員)

一同賛成

(3) 空き家活用・チャレンジショップについて

事務局)：要綱等の説明

宮脇(昌)委員)

現在、空き家の候補はあるか。

谷本会長)

駅前にいくつか候補物件があるように思うので、そこがお店になったら良いと思う。

田中委員)

うちの隣は入居可能。

宮脇(昌)委員)

空き家はたくさんあるが、貸す人がなかなかいない。

佐々木委員)

窪川のチャレンジショップは駐車場はどうしているか。

事務局)

借りている。4 台程停めれるようになっている。

太田委員)

チャレンジショップの出店者の任期はあるか。

事務局)

今の制度でいくと 1 年間のチャレンジになる。

太田委員)

誰か 1 年やったとしても、その後も誰かチャレンジする人がいないといけなくなると…。

田中委員)

チャレンジショップは、週3の出店の縛りがあるので、他で勤めている方は難しい。

宮脇(昌)委員)

窪川だとまだ集客が期待できるが、大正となると1年間その生業で食べていけないといけなくなるので少し厳しいかもしれない。何だと集客できるのか。

太田委員)

飲食から離れてもいいかもしれない。窪川のバイオリン工房も確かチャレンジショップから始まったはず。

宮脇(昌)委員)

整体はどうか。以前「やまびこ」という整体があったが、そこがあった時は私もよく行っていた。食べるものより需要がある。保険も効く整体だったので結構流行っていた。

太田委員)

実際、田野々商店街はかなり空き店舗が多い。昭和な感じがあって良いと思うが、閉まっている店が多いと開いている店も閉まっているように見える。

谷本会長)

やって欲しいことはいっぱいあるがやり手がいないことには。空き家が確保できて、その前段で何か事業をやりたい方がいればということで。

味元副会長)

順番からいってもやりたい方がいないと始まらない。

太田委員)

チャレンジショップをやるという方向性でいかないと探せないし、やると決まれば積極的に探せばいいし、出てくるまで待つというのであれば、案としてそれはちょっとなかなか難しいのではないか。

谷本会長)

チャレンジショップについては、現状ここから進まないの、一旦これで終わって次の議題に移ります。

(4) 予土線グッズのPRについて

事務局) PRグッズについて説明

田中委員)

メディアへの露出は必要だと思う。高知新聞には載ったがそれ切りになっている。

宮脇(昌)委員)

高知新聞の影響力は大きいと思うので、載ったときのPR効果を有効に活かしていけたら。

愛媛の方でも予土線圏域で意欲的に活動されている団体で有名な方がいる。その方たちにも協力してもらってはどうか。無手無冠でも「おもてなし券割引券」やトレーディングカードの販売にも協力させてもらっているが、おもてなし券については割引券よりちょっとしたグッズをお渡ししても良かったのかなと後で思いついた。

谷本会長)

他の店舗が自前で用意ができるかというのと難しいと思うので、全店でなくても単独でやりたいところがあれば個別にやってみるのも良いと思う。

味元副会長)

現在何枚くらい売れているのか。

事務局)

4月～8月末までの5ヵ月で、「まちあるき入場券」が800枚中300枚、トレーディングカードは6種類各200枚ずつ作って169枚の販売数となっている。

もちろん全種類、すべて売り切りたいという気持ちはあるが、それよりもこのグッズを製作した目的として、駅を起点として地域の中に入って喜んでもらいたいというところをもっと届けたいと思っている。

宮脇(昌)委員)

逆にまだ全然知らない人に店舗側から「こんなのがあつよ駅に寄つてみて」と紹介してもらうのもいいのではないか。

味元副会長)

今各店舗に2種類ずつ置いていると思うが、それを全種類各店舗に置いてみても面白いかなと思うが。当初のコンセプトとは違つてはくるが。

佐々木委員)

この存在を知らないというのが大半。例えば、テレビ等のメディアに取材依頼をしてみるとか。

味元副会長)

予土線の各列車にコンプリーツ版を展示しておけば、利用者などの目に留まる確率も高まるのでは。

田中委員)

列車内で販売となるとJRの許可と割高な手数料が発生するので現実問題厳しい。窪川駅の構内にチラシの掲示は一回お願いした経緯がある。

味元副会長)

大正駅に30分くらい停車する列車に置いてもらえたら、停車時間中にそのまま周つてもらえるかもしれない。

佐々木委員)

例えば協議会のメンバーで高知駅でチラシを配布してみるとか。予土線ではないが、予土線の魅力を伝えるきっかけにはなるかもしれない。

事務局)

来週11/15～17に高知市の鏡川沿いで「ふるさとまつり」が開催される。そこで予土線協議会もブースを構えて予土線のPRに行く予定となっている。そこでもグッズを販売する予定となっている。

宮脇(昌)委員)

酒絞りの体験教室の時に説明して歩いてもらえれば。時間が余つた時などにオプションで取り入れてみるのも良いかもしれない。

田中委員)

その際には説明が大事かもしれない。仕組みが少し複雑なので説明して伝えないと何か分からないという人もいるかもしれない。丁寧に説明をしながら周れた方がより楽しんでもらえると思う。

事務局)

またそういった機会があれば声をかけてもらいたい。

<提言案> タクシー・コンビニについて

◎タクシーについて

太田委員)

タクシーに関しては、実際事業者がいない段階でどうこうできる問題ではないとは理解している。ただ、ライドシェアの規制緩和というものが国自体でも進んでいないということ、またこういう現状があるということを町も知っておくべきだと思うし、この協議会でもそういう課題があることを知ったうえで出来ることを考えていけたらと思う。

◎コンビニについて

太田委員)

オーナーに誰かが手を上げないと…。雇用も生まれていいと思うが。

味元副会長)

コンビニを作るまではいかないと思うので、オーナー向け説明会で話を聞くくらいまではやってみても良いのではないかな。

太田委員)

まずは、この街にコンビニが必要なのか十分に検討してみないと。いろいろと商店との兼ね合いもあるだろうし難しい部分もあるかもしれない。実際コンビニがあれば夜でも買い物に困らなくなるだろうし、高校生もアルバイト先にもなる。便利は便利。ただ、まちづくり協議会でというより個人の話になってくる。

味元副会長)

提案としてあげておくのは良いと思う。

<その他>

◎赤鉄橋について

地域振興局長)

町の方から大正地域の道路の関係でお話をさせていただいて、もし意見があればいただきたい。

大正橋（赤鉄橋）があるが、昭和3年にできて96年くらい経っており、平成28年の橋梁点検の結果、耐震の関係で現在全面通行止めになっている。現在大正橋は、国の登録有形文化財、重要文化的景観（重要構成要素）に設定されており、町道でも昔ながらの歴史的な構造物である。現在は通行止めで通行できなくなっているが、それをどうするかということを一定町でも議論を進めているところであるが、車両を通行できるようにするには何十億ほどかかるのと、構造的にも見た目も変わってくる。今のままで車が通れるような状況にはできない。重要文化的景観の位置づけからすると、見た目も非常に昔からある歴史的なものなので、今の見た目のまま景観上残すということにしても、何億かはかかる。かと言って取り壊すこともなかなかできないということで、町として財政的なこともあるが、実際400mくらい下流に田野々大橋があり車道として復活させるのは難しいと考える。重要文化的構成要素からすると、一定今のものを塗り直しをして残すのも必要ではないかということで、何年後かには見直すということも考えてはいるが、大正地域まちづくり推進協議会の委員のみなさんにも、「まちづくり」「まちの活性化」というところでも関係性があると思うので、今の状況を知ってもらった上で何かご意見があればお伝えいただきたい。似た構造物で言うと中村の赤鉄橋があるが、あちらの赤鉄橋はまだ通れる。車が通れな

くても残すというのはなかなか大変ではあるが、車を通すとなると全く違うものになってくるので非常に現実的ではない。何も確定したものはないが、町として考えられるのは、景観を考えた上での塗り直し。それでも何億かはかかるという状況で簡単には決められないところではある。

宮脇(昌)委員)

赤鉄橋は大正のシンボリックな橋なので残して欲しい。

太田委員)

補修・改修するにも町の財産、町の予算だけでやらないといけないのか。

地域振興局長)

ほとんどそうなる。文化財として非常に価値のあるものなので、国の文化財関係者からもそういった予算があれば充てたらいいと助言をいただいているが、年間で文化的なものに充てれる予算が全国でざっと例えば50億だったとすると、都道府県に渡ると1億くらいしかない。その1億を当然県下にはさまざまなものがある、なかなかそれを使おうとしたら何十年もかかる。町の財政やその他道路に関する補助金等も基準がさまざまであり、非常に財政的なことでも厳しい状況である。

また、もともと赤鉄橋が町道で車道であったが、先ほども言ったように400mくらい下流に町道(田野々大橋)ができ、そちらの方も30年くらい経ってきて修繕も必要になってきている状況である。

宮脇(昌)委員)

大橋はなぜあちらにできたのか。

地域振興局長)

当時は、十和へ抜けるのにそれまでは大正新橋がなかったので、赤鉄橋を通っていた。赤鉄橋を渡って吾川を通って行っていたのが、平成の初めにバイパスとして田野々大橋ができ、その時には近くなって、それよりも何年かしてから今度、今の大正新橋ができた。いろんな経緯もありながら今に至っている。

味元副会長)

若い人の意見としてはどうなのか。

地域振興局長)

確かに、20代30代と70~90代の人との思い入れとか感覚はちょっと違うかもしれない。

宮脇(昌)委員)

そちら(田野々大橋)を赤く塗ってみてはどうか。

地域振興局長)

斬新な考え方ではあるが、それは重要文化財の位置づけがないので少し違ってくると思う。赤鉄橋は赤いだけでなく造りや形も違うので。

この場ですぐには難しいかと思うので、また何かあればご意見いただけたらと思う。

◎商店街の入り口の看板について

宮脇(昌)委員)

赤鉄橋の近くに「大正商店街へ」といった看板があると思うが、たこ焼きの「いちかわ」さんも道路沿いにUターンの看板を立てている。ああいった看板はどこに言っていけばいいのか。

地域振興局長)

土地の所有者に許可を得ることと、看板の大きさ等、四万十川条例を確認する必要がある。

宮脇(昌)委員)

大正商店街の入り口などに誘導する看板を設置したら、もっと街中に入ってくる人が増えるのではないかと。今は知らずにどんどん通り過ぎていくだけになっている。そこに「商店街あり」だけではなく「蔵元あり」といったものを加えてもらえたら、中を通ってくれる人が増えるのではないかと。

地域振興局長)

現在の看板の設置場所をこちらで確認してみる。町の所有物であれば一定町の方でもできるかもしれない。

◎なぜ若者は出ていくかについて

太田委員)

先日、大正中学校の文化祭に行ってきたところ、中学校1年生の課題発表で「四万十町しらべ」といったコーナーがあり、『なんで若者は出ていくか』という質問があった。

その理由として、中学校1年生たちは「仕事がない」「遊ぶところがない」「ショッピングモールがない」と書いてあったが、それが実際、今の若い子たちのここから出ていく本当の理由なのかなと考えさせられた。いくら自然があるとか、美味しいものがあると言っても勝てない。ただ、仕事がないというのは、実際求人を見ればないわけではないが、中学生から見た「自分にとっての魅力のある仕事が少ない」「自分のやりたい仕事を選べない」ということなのかなと感じた。

今回の回覧文書でも求人一覧が入っていたが、町内事業所だけでなく町内から通える範囲で募集をかけて、職業の選択肢がもっと増えるような、若者が町内に残れるような施策ができたらいいのではないかと感じた。今回はその感想まで。

谷本会長)

その他意見等がなければ、ここで一旦議題として上がっていた事項は以上になるが、その他意見質問等はないか。

委員)

意見なし

谷本会長)

それでは、議題がすべて終了したので終わりとする。今日はありがとうございました。

～終了～